

支本

十五
秋六
冬一

梁永和哥抄卷十五

秋部六

題

秋山

意

如

境

控

屏

秋

江

卷

九

書

又木和哥抄^本第十五

秋部六

題

秋山

鳥

柞

櫨_櫨

檀

薜

桐

紅葉

暮秋

九月畫

兼平

秋

秋

秋

秋

秋

秋

洛東二年



皇太后宮大夫依成

秋少人あきまの山よりあきまの山より

建保四年 百有三年 光明寺入の権段

あきまの山よりあきまの山より

永久四年 百有秋山 仲實朝臣

同院核改申百有秋山

同院核改申百有秋山

從二位左降心

そのまの秋よりあきまの山より

同百有

日

正治二年八月廿二日

題名

考
万人安使在禮 夢 秋 久 林 由 之 毛 今 安 倍 受 之 坐 京 師 乃 山 波 伊 呂 豆 使 奴 長 半
長秋

長秋

人磨

五三
正治二年八月廿二日

建久三年九月十三日

正治二年八月廿二日

建久三年九月十三日

正治二年八月廿二日

建久三年九月十三日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

三十字

玉下

あま

月

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

正治二年八月廿二日

現

予は故の世に人の子に生れしに
康元三年毎の一首中書

正統の年表

多かるもら成りての世に生れしに

日

日

日

白雲の世に生れしに

家集紅葉

情補朝長

みづの世に生れしに

十首

権僧正の朝

たまたまの世に生れしに

葛

文治三年五社首

皇太后の御成

予後集源文
卷之百四十四
衆人百四十四
独醒

とこのよわきつゝ

住吉社百首

意願味尚

よきみす

百首のうら

あまの世に生れしに

百首

年々

百首

春輝

あまの世に生れしに

百首

為真

新羅の世に生れしに

百首

天皇の御成

文永三年毎白二萬中

日

るきし本すきりしあはるしむのきつて

枯杉と

有る為守

三輪山にまじりてあはるしむのきつて

長き

後人

あはるしむのきつて

柞

東果高茂りし社

高辛七前高茂

神女はあはるしむのきつて

應和三年九月何有院言合事

淡介

あはるしむのきつて

豊

秋宮はあはるしむのきつて

菅原高茂

白河院

あはるしむのきつて

村景

高辛

あはるしむのきつて

遷懷

後教

はるかに三つにわかれし原にふりかへりし事
六百番の合抄 甚便和尙

山崎の村のやうなる原にわかれし事
正三位善行

はる原すしと交りてし事
古抄の事

日 始りし事
法橋取照

日 幸ひし事
藤原忠房

日 幸ひし事
源光朝

かゝる事
赤集抄の中 権僧正の事

常盤井入道ははる原に
常盤井入道ははる原に

日 幸ひし事
正三位善行

幸ひし事
安部門院の事

幸ひし事
赤集抄の中

幸ひし事
永仁三年九月に相つた事

友原為成

為成は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

宝治三年百三十四年

將内侍

いふはひの御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

六折題 新嘉吉

信實の御孫

志月子ももき殿はいづる御孫の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

日

御孫つる御孫

孝行の御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

湯集村系

中務親王

はる散之御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

森

御孫中

山崎の御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

御孫

御孫つる御孫

山崎の御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

櫛

百多郎系

順徳院の御孫

一日の御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

又直三年毎日中

御孫つる御孫

あつた御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

東山系

日

東山の御孫は名女御の御孫也其の御孫は名女御の御孫也

新三

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

古書

人まはるるにりてしるしに書かす

秋三

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

弘長三年

風ふりてしるしに書かす

久安二年六月

頼朝 頼朝 頼朝

昔のしるしに書かす

六右

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

後三

信海

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

日

薛

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

信海

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

千五百

後鳥羽院

しるしに書かすてんまのりてしるしに書かす

永保三年

源頼朝

其の意、
おのれを
累々たる
内はまに
あまの
うたは

伊勢の海もあはれは
鳴屋院の製

日 日
山人の目も
時雨のまも
多し
山人の目も

文治三年の社百首

皇天の意

様衣にまたらせぬ
二條院時時
今まきり
教ふ

日

山影も
仁寿二年
白河國

藤原任

紅毛の
衣
系

寂憐

前中

心
日
具親

日
意鎮

日
百首

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

求集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

日

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

おえ

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

建保

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

寛文

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

寛文

寛文

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

求集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

後集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

求集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

求集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

求集

寛文九年

多岐の地を治むるに
多岐の地を治むるに

清浦新片

永慶元年

永慶元年八月十日
永慶元年八月十日
永慶元年八月十日

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片
源雅重新片
源雅重新片

源雅重新片

源雅重新片

神代卷の御成敗の事
可成

権左衛門尉藤原朝臣
河原抄後文

信實の片

あまの御成敗の事
河原抄後文

心付の御成敗の事
建保三年火事取次

前中納言定家

河原抄の御成敗の事
河原抄後文

御成敗の御成敗の事
言盤の御成敗の事

御成敗

御成敗

御成敗の御成敗の事
御成敗の御成敗の事

御成敗

御成敗の御成敗の事
御成敗の御成敗の事

御成敗

御成敗

御成敗の御成敗の事
御成敗の御成敗の事

御成敗

御成敗の御成敗の事
御成敗の御成敗の事

後醍醐内侍家自号三合

以下重伴

可^同吟^同... 後醍醐内侍

後醍醐内侍

日... 後醍醐内侍

梯本礼信自号

... 後醍醐内侍

書多院... 後醍醐内侍

後二信字隆

... 後醍醐内侍

大信... 後醍醐内侍

後醍醐内侍

... 後醍醐内侍

先皇院... 後醍醐内侍

後二信載完

... 後醍醐内侍

先皇院... 後醍醐内侍

... 後醍醐内侍

... 後醍醐内侍

... 後醍醐内侍

右所... 後醍醐内侍

泰洋為相

... 後醍醐内侍

武都の親王女中首領之申

日

御事今也...
御事今也...
御事今也...

御事今也...
御事今也...

龍田...
龍田...
龍田...

洞院...
洞院...

後二信成...
後二信成...

...
...
...

元久...
元久...

川...
川...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

洞院...
洞院...

...
...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

天長二年^{四年}月日 諸人所言合の意

今令

よかるいひたり錦着時よりいふ事

田治二年十月
あつたるは

ふとふとふとふとふとふとふとふとふと

十巻にて
あつたるは

ふとふとふとふとふとふとふとふとふと

日
三田
あつたるは

五十巻にて

あつたるは

ま同
あつたるは

顔
あつたるは

文選 徳正寺
紙同 塚西 塚東
玄聖詩抄 巻廿

息
あつたるは

た
あつたるは

し
あつたるは

五
あつたるは

似
あつたるは

善
あつたるは

洞
あつたるは

山
あつたるは

日
あつたるは

山
あつたるは

あ
あつたるは

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

石巻

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Handwritten text in cursive script.

日

日

Red handwritten notes in the top left corner, likely providing additional context or corrections.

Handwritten text in cursive script, likely a list or record.

日

考陰丸

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

橋為他現也

Handwritten text in cursive script.

古

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

能宣的

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

元捕

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

余之捕

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

日

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

日

山崎闇斎の書

福徳

山崎闇斎の書

前大細言

山崎闇斎の書

惠慶法印

山崎闇斎の書

日

唐傳の書

交集林の書

山崎闇斎の書

原信可

山崎闇斎の書

交集海の書

山崎闇斎の書

福徳

山崎闇斎の書

日

新巻巻上

真実

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

同 僧侶の御覧に

久松義興 崇徳院の御覧に

入道 *Journal of the* 諸君の御覧に

新巻巻上
雲石有...
月秋...
日 前巻洋報附録

降参 *Journal of the* 諸君の御覧に

日 眞法郎

朝日新聞 *Journal of the* 諸君の御覧に

日 前巻洋報附録

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

日 前巻洋報附録

法橋題船

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

日 前巻洋報附録

法橋題船

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

刑部

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

洞院

法橋題船

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

日 前巻洋報附録

この書は、*Journal of the* 諸君の御覧に

曰

光俊の片

秋のころおまの交日と云ふは... 永久白年十月書降おま合おま

おまの片

唐錦の... 嘉

嘉... 嘉

嘉

時雨... 嘉

淡誠故内侍... 嘉

嘉

山... 嘉

後... 嘉

後

日... 嘉

嘉

西

右... 嘉

嘉

光... 嘉

嘉

光... 嘉

嘉

光... 嘉

曰

信

交年... 後二位頭氏
... 正三位
... 長
... 保
... 院

...

後國信卿

...

法橋顯昭

...

後信長改隆

貞應二年右阿可部

...

...

源仲房

...

...

同文合判

神祇伯頭仲

Handwritten text in cursive style, likely a list or record of names and titles, including '神祇伯頭仲' and '同文合判'.

長安二年法福寺同合判

朝白之... 同

同

龍白... 同

文久四年八條公方...

中院公方...

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

夜集白...

後頼朝...

Handwritten text, possibly a name or title.

夜集白...

同

時多りの程の年を暮るるあむし何く吹風を
建保四年家六着方合放つる事

光明寺合板改

駒多くとみみ時々放すの事い事秋成をさる

寛治三年百着

光後朝下

海老野事時七は事方知るもみらる事い事

建長七年顯朝の事す事也紅事

~~paper~~

信実の事

洞院板改事百着の事

岩盤事合の事

岩盤事合の事

八代文事の時多りの事

曰

後の降内上

今傳の事い事い事い事い事い事い事い事

梯下氣佐百着 曰

お事い事い事い事い事い事い事い事い事

南山百着合

後京板改

及事い事い事い事い事い事い事い事い事

衣集秋風

源賴實の事

昔師い事い事い事い事い事い事い事い事

建長八年百着合

前七幼言顯朝

事い事い事い事い事い事い事い事い事

同

右山中持師改

長安二年八月...
長安二年八月...
長安二年八月...

長安二年為親

洞院...
洞院...
洞院...

光明寺...

内裏佛會朝見紅葉
内裏佛會朝見紅葉
内裏佛會朝見紅葉

前中納言定家

建保四年百有
建保四年百有
建保四年百有

長安二年...
長安二年...
長安二年...

日 日

長安二年...
長安二年...
長安二年...

信實貞

長安二年...
長安二年...
長安二年...

長安二年...
長安二年...
長安二年...

正三位

長安二年...
長安二年...
長安二年...

長安二年...

前中納言定家

長安二年...
長安二年...
長安二年...

秋の日はたちどまりてついでに...

東集火の白雲

隆祐の片

秋の日はたちどまりてついでに...

百首の神心

藤原の歌

一斗の酒を飲むも...

白雲の神心

後醍醐天皇の御歌

村の多るる心...

稲花の行幸時

周防内侍

山杉まじりて...

後頼朝の片

まゝの心...

女三の心...

けりて...

~~~~~

建長八年百首三合

衣笠の片

まゝの心...

大原の心...

藤原の歌

まゝの心...

周防内侍

まゝの心...

魁の心

中御歌の片

まゝの心...

光明寺の歌...

秋の日はたちどまりてついでに...

明玉 在集 在版

新皇天皇

御宇

後三位左京大夫  
藤原元成

神祇伯頭仲

藤原元成

題名

瀨戸

大原公城

天

新皇天皇

神祇伯頭

北高親

入

北高親

藤原元成

大原公城

月

藤原元成

古

藤原元成

三

藤原元成

題名

月

藤原元成

天

藤原元成

藤原元成



日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

源今一

日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

日

暮秋

建保四年

長

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

日

園居日記

朗歌  
秋の宮内長  
階の南園  
初階園行在  
世宗

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

日

あはれなる時ぞはくし月念ふに花はあはれなる

長

後高橋指

西宮の御書に於ては...

六帖題

衣冠内記

十の御書に於ては...

曰

曰

十の御書の御書に於ては...

建長三年身御殿十の御書に於ては...

曰

十の御書の御書に於ては...

六帖題

光俊御書

十の御書の御書に於ては...

十の御書の御書に於ては...

十の御書の御書に於ては...

法橋頭照

十の御書の御書に於ては...

曰

十の御書の御書に於ては...

建仁元年十の御書の御書に於ては...

志願和尚

十の御書の御書に於ては...

田舎小本

曰

十の御書の御書に於ては...

舟の御書

曰

十の御書の御書に於ては...

法集

後支那書寺抄

木世里  
壬子白

理

建仁元年十一月廿一日

72

御中

建仁二年後の月内書

白

此の事等の二つありて

前中御言の意

二階院

社傳

上三山  
見  
七十

廿二

結

廿二

三

七月

依

千

寒

月

冬

讀人へ  
白

朗詠九月八日  
又奉  
朗詠九月八日  
以教  
不問  
為家

見屋  
事  
音  
音  
能因

上  
能因

九月書

延壽

書

延壽  
延壽

白

延壽

舌

延壽

延壽

延壽

延壽

延壽

延壽

朗詠九月八日  
又奉  
朗詠九月八日  
以教  
不問  
為家

日

中印言回信

父の本業も向く姑く子に備けりてかき下り  
百首云々

持るる白の花をよみての事なり  
正治二年百首

陽坊のたはらり山より船のりせし時月白夜  
信の月也

守りてのちたて夜半月をうけての事なり  
高元二年百首

持るるこの心よりてし事なり  
建保三年各所百首

順徳院古製

あつたあつたの心よりてし事なり  
百首

あつたあつたの心よりてし事なり  
後二作

あつたあつたの心よりてし事なり  
十首

あつたあつたの心よりてし事なり  
十首

あつたあつたの心よりてし事なり  
十首

あつたあつたの心よりてし事なり  
十首

先後部

孫の世に... 華... 長八...

年道法師

十... 其長八...

信真部

三... 千... 後...

二... 久...

一... 孫...

百首御哥

慈鎮和尚

孫... 孫...

三百三十一首  
長歌三百  
枕部百首  
長歌九首  
旋頭歌百

27

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

天 嘉

Faint handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, covering the right page of the spread.

夫不和可也  
夫不和可也  
夫不和可也

冬部一題

初冬 時雨 落葉 殘菊

神音月 冬持衣 冬七務 枯野

霜 寒草 冬風 冬月

冬雨 冬夜 冬衣 細代

冬之難

初冬

正信三年可也

後京極坊政

明子丹花の上と冬に集るて候はるは女も大

千上白書ま合

月

川の音とてつとむは梅のたしはるるは

月

前中絶てまふ

秋音に影はるるは衣入るさきの可也

月

嘉陽門院趣前

みまぬはあはれおちをてはるるは

同哥合判市三

後鳥羽院法親王

秋音とあはれおちをてはるるは



百首書

順徳院御製

あふのさきり衣をきく神のまじりす

同

同

解の音遊りさりけり  
朝鳥やしもあなを因り  
正治三年百首書

正治三年百首書

後鳥羽院御製

福くし勝のまじりたりや  
同

同

源師光

りくもるあまのかりに  
喜多院入道

家五十首

喜多院入道

霜の秋のまじりたりや

同

前大納言兼宗

山の野生いきひとあこ

賀茂社百首御哥

慈鎮和尚

秋のまじりたりや

女五百首書

女御御製

い修多ののまじりたり

柳本顯供百首

後九條内大臣

夕霜のまじりたり

百首書

後二位家隆

まじりたり

文治六年社百首初

皇太后宮大史俊成



吉道中待具氏

今りるは向社社の社日法にまじりていふ人  
堀河院の時百首初冬

中地之回信

沖野より冬より廿五日のよきあけあつた  
隆源法師

冬来りては秋より秋のまじりていふ人  
神宮月嵐

時雨

建保四年甲寅十首哥合

順徳院製

神宮月嵐より村雨より父のまじりていふ人

同五年甲寅十首哥合

同

和哥所三首より合治山と  
大蔵院有衆

和歌所三首より合治山と  
大蔵院有衆

生有院法師製

新十雜上

和歌所三首より合治山と  
大蔵院有衆

和歌所三首より合治山と

大蔵院有衆

同

和歌所三首より合治山と  
大蔵院有衆

大蔵院有衆

雲集

津見... 宇治殿... 雨聲階...

肩吹... 顯不知... 牛糞...

壽

存

同... 後...

後...

日... 夜...

後...

自...

宝治二年...

信...

我... 不...

後...

今... 時...

七...

原...

吾... 不...

後...

久... 小...

あ...

う...

千五百番三合

前出言書家

以別分大なる一の口を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

中務の為成

白雲の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集

中務の為成

千の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

可

風の雨を以て其の雨を以て白雲

君は其多合

前中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

如外法師

風の雨を以て其の雨を以て白雲

六拾題三合

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

可

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

夜集多し

中務の為成

風の雨を以て其の雨を以て白雲

日

奉議准給

以之りて是の時也其の事は

老若も中も合 忌慎和尙

明のまの事も神をくまへし

堀河院の時也 修理の事也

あまのりし時也神の事なり

是の事 漢人の事

いふ事なり其の事は

日向 人の

時也雨事なり其の事は

天文元年十月内也

権中納言師俊

是の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

其の事は其の事なり

刊元  
平

一

以て半本の時を以てしむるに  
東果日ある由 ありし程あり

自海にのぼる由はるるに  
建保三年の事あり

あの中絶なきあり

あのみ思ひのこしむるに  
仁徳寺文にまうしむるに  
日

あの新しむるにまうしむるに  
十五日書る合

慈順和尚

あまの村のまうしむるに  
福院の時あり

あまの村のまうしむるに

唐海のまうしむるに  
上り書る由あり

後鳥羽院御製

龍白のまうしむるに  
百書る由あり

日

神皇正統記のまうしむるに  
深しむる由あり

六條親王

あまの村のまうしむるに  
あまの村のまうしむるに

後鳥羽院

あまの村のまうしむるに  
十五日書る合

あまの村のまうしむるに  
あまの村のまうしむるに

あまの村のまうしむるに

大井川若くは中津川

田部と為友

中津川若くは中津川  
豊原今も昔も変わらぬ

日

大井川若くは中津川

中津川

勝今法郎

長

中津川若くは中津川

新編雑

日

結室郎

中津川若くは中津川  
中津川若くは中津川  
中津川若くは中津川

落葉

行吉社百首の文 蕉林和尙

本の花に  
弘安元年百首落葉

田部と為友

今も昔も変わらぬ  
毎日一首中

敬告  
昔の余り

中津川若くは中津川

中津川若くは中津川

玉子とみんお天  
今更なるもの  
名はこれにて  
中津川に海



あゝ一年の事

糸漸為相心

作すはあゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

月前の葉

句

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

家集の言葉

句

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

三回の中

句

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

古集

あゝの中

有範承郎

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝの中

有範承郎

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝの中

有範承郎

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝの中

有範承郎

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝの中

有範承郎

あゝと糸の下にありてよみと吹風を衣に

あゝの中

有範承郎

古集

玉粒

六世の子孫

七玉の子孫

London 1791-1792  
建保三年 春新刊

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

後三信 寛政

新刊

London 1791-1792

後三信 寛政

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

後三信 寛政

London 1791-1792

London 1791-1792

後三信 寛政

後三信 寛政

London 1791-1792

後三信 寛政

友實隆  
友實隆の片

有馬のりいりあめをさし井の原あめをり

曰 貞成政平

水とあめをりしりていりあめをりしり

申元三年十月十日をりあめをり合名あめをり

吉原のりあめをりしりあめをりしり

保元元年あめをりしりあめをりしり

友雅親  
親雅

本信のりあめをりしりあめをりしり

保元元年あめをりしりあめをりしり

吉原のりあめをりしりあめをりしり

久末百首  
あめをりしりあめをりしり

正治二年あめをりしりあめをりしり

小侍屋

あめをりしりあめをりしりあめをりしり

家集冬三月  
信明のり

あめをりしりあめをりしりあめをりしり

信明のり

あめをりしりあめをりしりあめをりしり

信明のり

あめをりしりあめをりしりあめをりしり

信明のり

前大綱言師仲卿

あめをりしりあめをりしりあめをりしり

朗詠  
六神泉花を並み  
風板踏音吹流如  
相和野手齋  
空濤朗唱皆去教  
片之江縁鏡  
空約古今在云  
翻唱同他畏排  
夜危別以樹葉覆夏直

家集深山洛葉 権大納言實家  
和歌の事

六五續

目  
此哥韻字百首 都門洛辭 今詠回霜上  
獨望康床 暇

十部百首本

目

草  
建長三年九月  
後長八年百首  
後長八年百首  
後長八年百首

建長八年百首  
後長八年百首  
後長八年百首

本  
夜十首  
後京極  
後京極

け  
六首  
宋首  
後京極

山  
山吹  
後京極

夜  
天王寺  
後京極

夕  
天王寺  
後京極

十百番三合の事 前中絶言自文

のたしきふもいふたて又たふた精のふた

日 後二位文隆

本はらふまはまの神のふた

日 白を権と史文房

たのふたのふた

建保八年内裏十番三合

西園寺入道文政

たのふたのふた

千五百番三合 慈徳和局

身一のふたのふた

東寺のふた

新

たのふたのふた

六古題を同 先後和局

今ふたのふた

後二位文隆

ゆたのふたのふた

後二位文隆

ふたのふた

建長八年百番三合 後出降田長

ふたのふた

信実和局

ふたのふた

長尾田長

時會に各様は存るべき事本村に於ては  
安元三年十月十五日庚子合名

情補の事

後赤の今村の事村時雨は多くと本村に  
此三判夫 情補の事 合名 合名 合名  
子に難る事 且此は多くと本村に  
とてははげしくも本村に  
資通七員の一合は良勢は即の事本村  
はさける事本村に

同

源仲信

日一 合名

おまじらしり海軍の事本村に  
建保五年十月五日

後二信本村

立回に於て本村の事本村に  
建保五年十月五日

日三信本村

火事本村の事本村に  
可方本村

意領知る

本村の事本村に  
建保五年十月五日  
風心本村の事本村に  
同

日

父方の事本村の事本村に  
毎日本村

日一信本村

舟本村の事本村に  
舟本村の事本村に

お禎三年十月三十一日

如願は仰

<sup>新抄</sup> 昔はまはらからあふくさひまきまのぬり時由れ

馬集

後徳光寺にたす片

風はつ相ふり村さけたりあつた何事家傳り

光明寺寺入る枝のまきり

書斗入るたのまきり

此の言ふはたあまのまきり少きまきり賀部村

建保三年名所同言

正三位女御

はまのまきりたのまきりまきりまきりまきり

友康光

同

久しうのまきり入風のまきり山守村たのまきり

同五年内裏七名まきり合冬山守

権左衛門右衛門

是のまきりまきりまきりまきりまきりまきり

おまきりまきり合 後る我まきり

まきりまきりまきりまきりまきりまきり

後徳光

何らまきりまきりまきりまきりまきり

日

日

奥山まきりまきりまきりまきりまきり

建保三年のまきりまきりまきり

南のまきりまきりまきりまきりまきり

甲申

西尾茶

西山院抄製

の書に記すは西尾茶の事なりと云ふは其の事なり

衣尾茶 山路落葉 前尾茶の種首

少茶の味と云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

百首茶 光後茶

茶の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

新條茶 古茶

茶の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

# 残菊

家集残菊の 蜀之

秋の菊の事なりと云ふは其の事なり

正長三年十月の裏菊

是則

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

初時菊の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

菊の事又云ふは其の事なりと云ふは其の事なり

権中納言師俊



露中（五）の草花の影をたぐひてはるる花

日 海雅光

病うははるる花の影をたぐひてはるる花

日 友重基（見字）

秋言く子種の花の影をたぐひてはるる花

日 百為由美 順徳院御製

冬来りてはるる花の影をたぐひてはるる花

日 六可普号合後菊 故老松林氏

心通りてはるる花の影をたぐひてはるる花

日 志満中（五）の草花の影をたぐひてはるる花

春満中（五）の草花の影をたぐひてはるる花

日 上三位源氏

露中（五）の草花の影をたぐひてはるる花

日 上三位源氏

心通りてはるる花の影をたぐひてはるる花

日 法橋顯昭

お中（五）の草花の影をたぐひてはるる花

日 慈帳呼尚

草花（五）の影をたぐひてはるる花

日 降信朝氏

心通りてはるる花の影をたぐひてはるる花

日 寂尊法師

一枝にたぐひてはるる花の影をたぐひてはるる花

井上（五）の草花の影をたぐひてはるる花

後山のつらき花はさへたる心はつらき花  
えんじの湯たり 判多右左衛門の白

あゝあゝの心残り 残菊の心をよむ  
こゝろのつらき花はさへたる心はつらき花  
こゝろのつらき花はさへたる心はつらき花

白菊の心をよむ 意匠如也

白菊の心をよむ 意匠如也  
白菊の心をよむ 意匠如也

白菊の心をよむ 意匠如也  
白菊の心をよむ 意匠如也

白菊の心をよむ 意匠如也  
白菊の心をよむ 意匠如也

白菊の心をよむ 意匠如也  
白菊の心をよむ 意匠如也

白菊の心をよむ 意匠如也  
白菊の心をよむ 意匠如也

神中月

文集百卷十月

菊天

文集百卷十月 菊天 好了 景似

春花

前中納言定家

昔及冬之末時に幸はるる草花若菜の妻は父たる

伊呂波早七番

之村の冬末の草花の妻は父たる

祇園社百芳時雨

皇太后宮女後成

神弓月時多々也又村子妻は父たる

正治二年百芳

後二位家隆

少の村の冬末の草花の妻は父たる

十五百番之合

後鳥羽院文由

神弓月時多々也又村子妻は父たる

家百芳之

民部少納言

神弓月時多々也又村子妻は父たる

詠詠  
百首  
可憐

家集十月の末の草花の妻は父たる  
文火向年毎百一十月晦日

信実の長

神弓月時多々也又村子妻は父たる

六古題

信実の長

神弓月時多々也又村子妻は父たる

久持衣

天仁二年仲頼師家之合

有教隆

神弓月時多々也又村子妻は父たる

朝深百芳之云国実之夕好之或備州好石上

民部少納言

今川了俊の御書  
永享四年是書百有冬云

為實御書

衣冠人合はるるに上り下りしに  
永享四年

久々書

堀河院書時百有冬云

為基儀

まらたの御書みよる御書

建保四年内裏十有冬云

後二信書

朝の御書川霧又云

弘治元年毎日一書

御書

南上り御書

正徳二年毎日一書

日

御書

文應元年十社百有冬

朝の御書

康元二年毎日一書

日

谷天の御書

光厳院入りの御書

後(徳川) 徳川家法

あつたまのしるしを以てしるすに母をたてしるすは母を以てす

徳子親王を以てしるすに母をたてしるす

おのりたま

川霧のしらゆり岸に花を以てしるすは母を以てしるすに母をたてしるす

枯葉

おのりたま

おのりたま

るしるのしるしを以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

上書する命を以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

庶民を以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

日 庶民を以てしるす

父のしるしを以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

日 庶民を以てしるす

華を以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

日 庶民を以てしるす

病を以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

日 法橋頭照

おのりたまのしるしを以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

文治三年 前中地

おのりたまのしるしを以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

貞應三年

民部

病を以てしるすに母をたてしるすは母を以てしるす

正治二年百有四年 後鳥羽院出御

すし<sup>て</sup>至<sup>り</sup>しに其<sup>れ</sup>時<sup>に</sup>冬<sup>の</sup>枯<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

百<sup>の</sup>馬<sup>を</sup>

順<sup>徳</sup>院<sup>御</sup>製

吹<sup>風</sup>の<sup>こ</sup>も<sup>ら</sup>し<sup>む</sup>る<sup>に</sup>は<sup>か</sup>ら<sup>ず</sup>に<sup>も</sup>ち<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

若<sup>者</sup>五<sup>十</sup>有<sup>三</sup>合

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

ふ<sup>か</sup>く<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

建<sup>保</sup>四年<sup>内</sup>裏<sup>十</sup>有<sup>三</sup>合

後<sup>三</sup>位<sup>行</sup>能<sup>る</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

霜

光<sup>俊</sup>御<sup>製</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

信<sup>實</sup>御<sup>製</sup>

新<sup>六</sup>の<sup>御</sup>製

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

霜

家<sup>集</sup>意<sup>多</sup>中

伊<sup>勢</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

霜

瑞<sup>の</sup>御<sup>製</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

家<sup>集</sup>

和<sup>泉</sup>御<sup>製</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

家<sup>集</sup>

和<sup>泉</sup>御<sup>製</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>事<sup>の</sup>成<sup>る</sup>の<sup>原</sup>

海軍省... 陸軍省... 文部省... 逓信省... 大藏省... 農商務省... 司法省... 文部省... 逓信省... 大藏省... 農商務省... 司法省...

堀川院時百芳

前大納言公實

建保三年 右新可重

川口信實

父... 母... 兄... 弟... 子... 孫...

父... 母... 兄... 弟... 子... 孫...

幸

父... 母... 兄... 弟... 子... 孫...

百芳

後二位

千五百

系

文治三年

皇右大臣

長久三年

右大臣

建久三年

可

中ノ村ノ事ニ付テモ打テテノ事ニ付テモ  
古古也

新三巻ノ  
カクシテモ打テテノ事ニ付テモ

可々ニ中

霧ノ下ニ而テテノ事ニ付テモ

夜集ル曙曙  
糸織ル相

中ニモシテモ打テテノ事ニ付テモ

建長公年百々合  
頭頭

云々ニ付テテノ事ニ付テモ

馬集申  
順徳院ノ事

言々ニ付テテノ事ニ付テモ

建保三年右所可也馬

日

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

長久ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

百々ニ付テテノ事ニ付テモ

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

建保五年中裏ノ事ニ付テモ

信實也

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ

中ノ村ノ事ニ付テテノ事ニ付テモ



五十二位夜併

必事くつじしんしん事ある白濁とて其猶を成る

建保三年家百首より経典

光明寺入乃指の

源藏の山の入りたるを云ふなりけり

信実の事

みくぬきあきふゆふに心持の事なる

正治元年毎日一首中

田部なる事

白ゆきふくはるはるの事なる

又建保三年毎日一首中 十一日可

日

と物とあはれぬ事なる

光俊の事

谷とてなる事なる

家集の事

いふ事なる事なる

正治二年百首

いふ事なる事なる

寒草

日吉社十五番より合 後京極の事

升るいふ事なる事なる

建仁元年十首より合 尚吹草

皇太后宮使藤原

小隆京（乙）の御事

三百六十年

所（イ）の事也隆は此の如く

子日昔に命（イ）

家集（イ）の事也隆は此の如く

東集（イ）の事

家集（イ）の事也隆は此の如く

家集（イ）の事

藤原

吾妹（イ）の御事

永久九年十月三日

藤原

我々の御事

百首の文

百首の文

六首書る

藤原

此の御事

中首の事

中首の事

中首の事

中首の事

六首の事

藤原

新六  
吹風  
日

かみ舞  
信實

久

垣  
建

信實

新  
建

建保四年

信實

旅衣

家集

後頼朝

後葉集  
文治  
皇太后

六拾題

光俊

新六  
私

私

信實

大

家集

信實

久

子

日

久

福の御成り申上り候御事候間御座候

東果の御事

二條院御成

難波

難波の御事候間御座候御事候間御座候

正徳二年御事

前二細言陰房

律の御成り候御事候間御座候御事候間御座候

東果の御事候間御座候御事候間御座候

一は御成り候御事候間御座候御事候間御座候

家集の御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候御事候間御座候御事候間御座候

御事候間御座候

宝徳二年十月廿三日 夜三時

新古今和歌集 卷之八

心風

同古今和歌集卷之八 心風

淡人

新古今和歌集 卷之八 心風

御子田部

新古今和歌集 卷之八 心風

川口

新古今和歌集 卷之八 心風

新古今和歌集 卷之八 心風

六百番 合推 大我

新古今和歌集 卷之八 心風

平上韻 合推 願 中道

前中

新古今和歌集 卷之八 心風

古古題 入

新古今和歌集 卷之八 心風

正信 陸信

新古今和歌集 卷之八 心風

古古題 入

新古今和歌集 卷之八 心風

中行

後

建保四年内裏十有三月合

光明寺入札

光明寺入札  
光明寺入札  
光明寺入札

光明寺入札  
光明寺入札  
光明寺入札

光明寺入札  
光明寺入札  
光明寺入札

二月

二月  
二月  
二月

二月  
二月  
二月

建保五年内裏三月合冬同月

権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信

権左地言忠信  
権左地言忠信  
権左地言忠信



新  
六帖題

あつらひのてらにまはしりてあはれなる月

日

信実の長

本朝のついでにまはしりてあはれなる月

家集のてらにまはしりてあはれなる月

信実の長

神指やまはしりてあはれなる月

宝祐二年の月

やまはしりてあはれなる月

家集のてらにまはしりてあはれなる月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

久安二年の月

野展右月詩  
敬遠春去速  
夜露空月行深

あつらひのてらにまはしりてあはれなる月

日

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

梅中納言の定

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

此等判者八條入の太相國のたの月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月

いすらひのてらにまはしりてあはれなる月



冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部  
冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

冬雨

文永七年毎日一雨

民部

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

日

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

日

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

後二倍

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

衣

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

光

冬雨  
文永七年毎日一雨  
民部

冬夜

冬夜

毎日一巻申

臣部御方

御事申上り候御事候間御座候

久世可也

皇太后言方後成

御事申上り候御事候間御座候

三回十日申

如兼

御事申上り候御事候間御座候

御事申上り候御事候間御座候

六古題

正三位

御事申上り候御事候間御座候

今夜

二百廿三回

申書停る更七夜成

格書  
西下  
女事心在御事

御事申上り候御事候間御座候

日

正三位

御事申上り候御事候間御座候

日

正三位

御事申上り候御事候間御座候

日

後二位

御事申上り候御事候間御座候

日

正三位

御事申上り候御事候間御座候

日

正三位

御事申上り候御事候間御座候

廿三回

正三位

後信

吉田 俊信

From ... to ...

願

日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

海に舟を乗せしむるは、  
可

船に舟を乗せしむるは、  
可

# 綱代

此の國より集時を信じて

人ぬ

由りて舟を乗せしむるは、  
可

舟

清人

舟に舟を乗せしむるは、  
可

舟

舟

舟に舟を乗せしむるは、  
可

内裏出屏風

結室綱代

舟に舟を乗せしむるは、  
可

寛和二年二月内裏より綱代

友權綱代

舟に舟を乗せしむるは、  
可

寛勝四年三月右新羅子

友権綱代

舟に舟を乗せしむるは、  
可

六帖題

光後綱代

舟に舟を乗せしむるは、  
可

建長七年顯朝より舟綱代

信實綱代



文治五年十月

後白河院御

廿三日みづはまき御成事一ノ御成事

建久元年十月

日

後白河院御成事十月庚申

後白河院御成事十月庚申

後白河院御

手紙の御成事御成事御成事

日

後白河院御

川霧の立ちぬ時細成事

日

美作

細成事御成事御成事御成事

後白河院御成事御成事

御成事御成事

御成事御成事御成事御成事

御成事

御成事御成事

御成事御成事御成事御成事

御成事

御成事御成事

御成事御成事御成事御成事

御成事御成事御成事

御成事御成事

御成事御成事御成事御成事

御成事御成事御成事

御成事御成事

御成事御成事御成事御成事

御成事御成事御成事

御成事御成事御成事

御成事御成事御成事

文治三年書入内府

陸信綱

おきつるにまはるる御心算(し)華(し)今(し)今(し)今(し)

月 御心算(し)御心算(し)御心算(し)

いふ所(し)いふ所(し)いふ所(し)いふ所(し)いふ所(し)

いふ所(し)

冬 雜

赤果

御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)

三百年名

御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)

御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)御心算(し)

冬御三月中

式子内親王

王統上

後醍醐天皇御宇

西洞隠七百首口三 後高松抄段

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

寛永十三年

...



2

2

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

110X  
495  
21